【高等学校用】 様式1（高等学校）

令和３年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている Ｂ：おおむね達成できている Ｃ：やや不十分である Ｄ：不十分である

学校名	佐賀県立伊万里実業高等学校（商C）［定時制］・伊万里商業高等学校［定時制］

1　前年度 評価結果の概要	○学校の教育方針や目標についての保護者・生徒に対する浸透が十分でなかったため、活発な広報に努める必要がある。 ○いじめの予防に重点をおき、アンケートや個別面談の頻度を多くしたことで、発生時の早期発見及び迅速な対応にもつながった。また、教育相談や特別支援の視点に立った個別の支援にもより努めたことで、不登校や中途退学等を大きく減らすことができた。 ○卒業生は進学、就職ともに全員が進路を決定することができた。また、通信制高校との併修による３年での卒業もおり、生徒の多様なニーズに対応することができた。今後は、４年間（ないし３年間）を見通した系統的な進路指導をより充実させる必要がある。
2　学校教育目標	【実業】心身ともに健康でたくましく、至誠と礼節を重んじ専門的知識・技術を生かし社会に貢献する人材を育成する。 【商業】生徒一人ひとりの「生きる力・生き抜く力」を育み、経済社会の変化に十分に対応しうる、社会人・商業人としての資質（知識・技能）を身につけさせ、社会に貢献できる心身ともに健全な生徒の育成を目指す。
3　本年度の重点目標	《～見る夢は叶わず　追う夢は叶う～》をスローガンとして、心身ともに健全な人材の育成に努めることにより、社会貢献ができる人間性豊かな生徒の育成を目指す。 ○集団生活の中で、相互に理解しあう心を醸成し、協調性を高める。 ○基礎学力の向上に努め、思考力・判断力・表現力を磨き、進路実現１００％を目指す。 ○新しいものを創造するとともに、来たるべき社会の構築に積極的に参画できる生徒を育成する。

4　重点取組内容・成果指標　／　中間評価　／　5　最終評価

（1）共通評価項目

重点取組 評価項目	重点取組 取組内容	重点取組 成果指標（数値目標）	具体的取組	中間評価 進捗度（評価）	中間評価 進捗状況と見通し	最終評価 達成度（評価）	最終評価 実施結果	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 意見や提言	主な担当者
●学力の向上	○基礎学力の定着	○基礎学力テストで50％以上正答した生徒が、70％以上	・学校行事の精選を行い、授業時間を確保する。 ・授業実施率90％以上を目指す。	B	・台風での休校1日以外は順調に授業実施ができている。このまま行けば全教科で目標達成可能である。 ・基礎学力テスト4回実施の中、50％以上正答した 生徒は63.5％であった。	A	・コロナウイルス感染症や荒天による学級閉鎖も1日のみ。順調に授業を行う事ができた。授業実施率は104％であった。 ・基礎学力テストの正答率50％以上の生徒は84％であった。	A	・コロナ感染による閉校や学級閉鎖を危惧していたが、何事もなくよかった。 ・年間を通した基礎学力の定着への取組は、生徒の意欲向上につながる面もあると思うので、続けてもらいたい。	教務
	○専門教科指導の充実	○指導方法の創意工夫により、「できる（自信をつける）授業」を展開する。 ○各種検定資格試験の合格率90％以上にする。	・ティームティーチングによる個別指導をする。 ・基本練習を確実に行う。 ・達成度を確認させ、目標を明確にしていく。	B	・ティームティーチングによる指導による個別指導の充実により、生徒の理解力が高まっている。 ・各種検定試験の合格に向け、順調に進めることができている。	B	・ティームティーチングによる指導により個々の能力を発揮させることができている。 ・各種検定試験にむけ、合格に値する能力を身に付けている。	B	・個々に能力向上を目指させる指導をお願いしたい。 ・検定試験の取得により自信が生まれ、更なる意欲につながると思うで頑張らせてもらいたい。	商業
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○講演を受けて「ためになった」と回答した生徒が80％以上	・人権・同和教育、情報モラル教育の講演会の実施。 ・HRや授業等様々な場面で、他者を思いやることの大切さを説く。	A	・人権・同和教育、情報モラル講話共に95％以上の生徒が出席し、90％以上が「ためになった」という回答があった。 ・各HRや気になる言動があった生徒には声かけを行い、その都度話しをしている。	A	・年間をとおした人権・同和教育関連のHR及び講演会や情報モラルに関する講話への生徒の出席率は95％を超え、「ためになった」という評価も92％を超えた。	A	・外部講師による講演等はオンライン導入を取り入れてもよいのではないか。 ・生徒が将来に希望をもてる講演を多く取り入れてもらいたい。	教務
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「いじめの問題に関する点検項目」に対し、95％以上の職員が全て「おおむねできている」「できている」の回答	・「いじめアンケート」を隔月実施、「生活アンケート」を前後期各１回実施 ・生徒に関する情報交換・協議会を毎月実施	B	・いじめアンケート調査により、2件の認知があった。 ・職員間の情報交換や生徒との日々のコミュニケーションを密に図ることができている。	B	・いじめアンケート調査により、合計3件の認知があった。 ・いじめについて組織的な対応を実施できた。	B	・いじめアンケートに書くのは、大変勇気がいることであろうから、しっかりとその声を捉えてもらいたい。 ・SNSによるいじめ防止には、当校はしっかりとした啓発・教育に取り組んでいると思う。	生徒指導
	○（学校独自重点取組・任意） ・生徒主体で生徒会活動に関する行事の運営をさせる。	○（学校独自成果指標・任意） 全校体育やクリスマス会で生徒会役員で行事を運営させる。	・全校体育やクリスマス会を実施する。 ・定時制・通信制体育大会への参加をさせる。	A	・全校体育では、生徒会役員が競技の進め方を説明し、スムーズに競技を進めることができた。 ・定時制・通信制体育大会では、大会前に熱心に練習に励み、すべての生徒が大会に参加した。	A	・ボランティア清掃活動では、すべての生徒が清掃活動に参加し、学校周辺をきれいに清掃することができた。 ・クリスマス会では、生徒会役員が司会やクリスマスの意味の説明やビンゴゲームの進行を行い、スムーズに会を進めることができた。	A	・生徒が能動的に取り組める機会をできるかぎり多く設けてもらいたい。 ・コロナ感染により生活体験発表会が中止されたのは残念であった。発表を経験させる良い機会なので是非、来年度は行ってもらいたい。	生徒会
●健康・体つくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える生徒85％以上 ○給食の喫食率80％以上	・喫食調査を毎日実施し、生徒の健康状態を併せて把握する。 ・食生活に関する定期的な面談を年２回以上実施する。 ・「給食だより」を毎月発行する。	B	・前期の面談は全員実施し、生徒の実態把握と朝食の大切さや望ましい食習慣など指導した。後期の面談は数名個別指導を行う。 ・食欲がない生徒にも一品でもいいので食べるように声掛けを行っている。 ・ホームページに毎月献立表を掲載している。 ・４月～９月の平均喫食率は73.2％。	B	・「健康に食事は大切である」と考える生徒は94.7％で、1人を除き大切であると答えた。 ・1月までの喫食率は73.8％であった。（特定の遅刻や欠席者が多いため） ・朝食毎日喫食率は36％で、4月よりも増加した。給食の時間や講話を通して、食の大切さや望ましい食習慣を身に着けさせるために食に関する指導を継続的に行っていきたい。	B	・食に関する個別面談や講話によって生徒の健康意識が向上している。 ・毎月の給食だよりや献立予定表によって、給食を楽しませてくれている。 ・新型コロナウイルス感染対策は今後も継続して行ってもらいたい。	給食
	○健康管理能力の向上	○保健室の利用率（一人当たりの年間平均利用回数）7.0未満 ○う歯治療の処置完了者率20％以上	・出席状況や健康観察から問題を抱える生徒の早期把握と面談、職員連携を図る。 ・給食後の歯磨き指導を徹底する。	C	・毎日の登校健康観察をおこない生徒の心身の健康問題の早期発見に努めた。保健室利用状況率は4月から9月の間で既に8．45、工夫改善の必要性がある。 ・う歯治療の処置完了者は、歯科検診では5．9％であったが、治療勧告後は17．6％となった。	B	・年間を通して健康観察を実施し、生徒の感染症対策等に取り組んだ。 ・保健室利用状況率は4月から1月までは、398人（一人当たり19.9）で、昨年度161人（6.7）に対して約3倍増であった。担任や関係職員とより連携を密にする必要がある。 ・う歯治療の処置完了者は中間評価と同じく17.6％。3月まで治療勧告をしていきたい。	B	・保健室利用が増えている原因分析と改善策をお願いしたい。 ・ウイルス感染等の予防については、よく取り組んでもらっている。引き続き衛生管理をお願いします。	保健
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎日の定時退勤推進 ・学校閉庁日の設定 ・出退勤管理システムによる日常チェック ・定期的な業務バランスの確認	B	・定時退勤への意識が高く、概ね良好である。 ・校務の兼任をしている先生が多いが、互いに協力し、サポートし合っている。昼礼や職員会議で概ね情報共有が図れている。質問や意見など発しやすい環境を維持していきたい。	A	・退勤時間が遅い職員は全くなく、持ち帰り業務も特出すべきものはなかった。 ・全職員の時間外勤務時間の各月平均は10時間前後であった。 ・職員間の協力もあり、年次休暇の取得推奨も図ることができた。	A	・オンラインによる会議が主流になり、時間短縮が図れるようになっていくと思う。 ・先生方の健康があって、授業が成り立つものなので、休めるときはしっかりと休養してもらいたい。	教頭

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組 評価項目	重点取組 重点取組内容	重点取組 成果指標（数値目標）	具体的取組	中間評価 進捗度（評価）	中間評価 進捗状況と見通し	最終評価 達成度（評価）	最終評価 実施結果	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 意見や提言	主な担当者
○自己実現の充実	○進路指導の充実 ○キャリア教育の充実 ○希望進路の実現	○在校生の就業率を75％以上をめざす。 ○卒業予定者の進路決定率を100％にする。	・１年次からの就労体験を通し、社会性を身に付けさせ、進路意識を高める。 ・全日制進路指導部および、ハローワークと連携し、進路情報を収集して、生徒に提供する。	A	・9月末時点での全校生徒の就業率は77．8％となっている。 ・進路意識を高めるための指導を、担任や全日制進路指導部との協力のもとに行うことができ、応募前職場訪問等への参加も積極的に行った。	A	・2月現在での全校生徒の就業率は84．2％となっており、働くことへの意欲は高くなっている。 ・現時点での卒業予定者の就職・進学の内定・決定率は100％となっており、今年は例年になく早い時点（11月）で決定した。	A	・アルバイトのために登校が遅れることがないよう配慮が必要である。ただ、アルバイトによる社会性の育成効果は高いと思う。 ・卒業生すべての進路決定が例年より早期であったのは、高く評価できる。	進路指導
○教員の資質向上	○授業改善による教員の資質向上	○生徒による授業評価3.3以上（4段階）	・年度中期及び末に生徒による授業評価を行い、その後の改善に生かす。 ・いつオンライン授業実施することになっても対応できるよう、生徒・職員の操作スキルや環境整備を速やかに行う。 ・授業評価、アンケートの結果を基にした、職員による授業改善協議（校内研修）を実施する。	B	・生徒による授業評価は3.77（4段階）と高く、全体的には生徒の実態に合わせた「分かる授業」ができている。しかし、授業科目への興味関心については評価が3.58（4段階）であり、興味関心を持たせる工夫が必要である。 ・現在のところ、オンライン授業を実施する状況には至っていない。 ・対面授業の中では電子黒板、学習用PCを活用しており、PCの操作スキルの向上は図れている。	A	・生徒による授業評価は3.82（4段階）で、引き続き目標値を達成することができた。前期との比較では、2、1の評価の数が減少しており、向上が見られらた。ただし、「興味関心」については3.59と最も低く、他の評価同様の水準まで上げるよう更なる授業工夫が必要である。	A	・生徒による評価を授業改善に繋げる取組は、今後も継続した方がよいと思う。 ・興味関心を持たせるための授業研究をお願いしたい。	教頭

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・コロナウイルス感染予防策を講じながら、おおむね順調に学校行事を行うことができた。オンラインによる会議や研修会等への取組も多く取り入れてきた。今後も効果的活用をしていきたい。 ・進路指導においては、早め早めの指導体制で臨んだことが功を奏した。今後も全日制の求人情報を鑑みながら早期から取り組んでいきたい ・いじめ問題も3件発生したが、早期の発見と職員一致の体制で臨んだことで、悪化を招くことなく解決へと導くことができている。今後もいじめの早期発見・解決に組織的に努めていく。